介護相談員の声

「家族の力」

私は、実家の母の施設入所を機に介護相談員の仲間入りをしましたので、特に利用者さんやご家族の立場に立って、施設と話し合いをしております。

私が訪問している施設では、毎日の食事、トイレや入浴の介助、健康管理、リハビリ指導などはもちろんですが、多くのレクリエーションを企画し、ご家族に訪問していただく機会を多く持とうと考えているそうです。

施設でお目にかかったご家族から「会いに来ても私が誰だかわからないようで」と、度々そんなお声を耳にしますが、先日、ちょっとうれしい経験をしました。

ある利用者さんと話をしている私の後ろで「私、妹です。昨年は私をわかってくれたのですが、今年は全くわからなくなってしまって・・・」という声がしました。「仲良しだったのに！寂しい」というお話を伺い、利用者さんに妹さんのお名前を告げてみました。

即座に「それはわしの妹の名前や」とのお返事！「こちらに会いに来ていらっしゃいますよ」と妹さんに車いすの横に立っていただくと、

「花子（仮名）か？花子？？…花子や！！」そういいながら手を伸ばし、妹さんの手を取ってしっかり握りしめられました。

手をつないでいるお二人の目に涙が溢れているのを見て、離れたところで私ももらい泣き。

なかなかこのような劇的な面会は望めませんが、認知症の進んでしまった利用者さんでも、ご家族と一緒の時は、確かに幸せそうです。リラックスしていらっしゃいます。

ご家族の力の大きさを痛感します。

心にかけながら、なかなか時間が取れないご家族が多いと思いますが、できるだけ訪問していただけたら…と願っております。私の耳にも母の呼ぶ声が今も聞こえております。

京都市介護相談員　本井　カツ子